

マリレジャー安全レポート

第15号(平成18年9月)

第七管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp

第七管区海上保安本部管内において、7月1日から8月31日の間に発生したマリレジャーに伴う船舶海難・人身事故発生状況及び若年齢層、マリレジャー愛好者等を対象にした安全指導・取締りの実施状況等を取りまとめました。

マリレジャーに伴う船舶海難、人身事故の発生状況 (7月・8月速報値)

プレジャーボート等の船舶海難の状況

船舶海難39隻(昨年比6隻減)、海難による死者1人(昨年比同数)
海難に伴う海中転落者11人、そのうちライフジャケット着用者1人

事故の内容は次のとおりです。

船舶用途別	モーターボート34隻、ヨット2隻、遊漁船1隻、その他2隻
海難種類別	運航障害13隻、機関故障9隻、衝突5隻、乗揚・推進器障害各3隻等
海難原因別	見張り不十分、船位不確認、水路調査不十分等運航の過誤、機関の取扱不良等の人為的な原因が全体の約7割
海中転落者	ライフジャケット着用者1人、非着用者10人(死者1人)

マリレジャーに伴う人身事故の状況

事故者は32人(昨年比11人減)、うち死者は10人(昨年比13人減)
遊泳中の事故者は昨年比10人減、死者も9人減
事故の約7割は土・日曜日、50歳以上が事故者の3割、死者の7割若年齢層(18歳以下)は8人(昨年比2人増)、死者0人(昨年同)

事故の内容は次のとおりです。

遊泳中	溺水6人(死者4人)、帰還不能6人、負傷1人 原因;知識・技能不足、無謀行為、気象・海象不注意等
釣り中	溺水1人(死者1人)、病気1人(死者1人)、海中転落1人 原因;不注意等いずれも自己過失
磯遊び中	溺水2人(死者2人)、負傷1人
その他	ボードセーリング中2人(死者1人)、水上オートバイ中2人、ウェイクボード中3人
プレジャーボート乗船中	海中転落5人(死者1人)、病気1人 海中転落者のうち3人はライフジャケット非着用(死者1人)

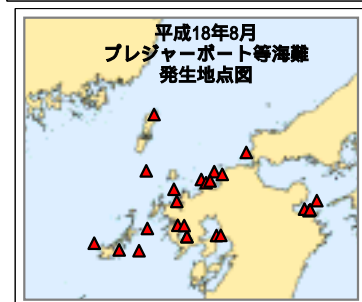
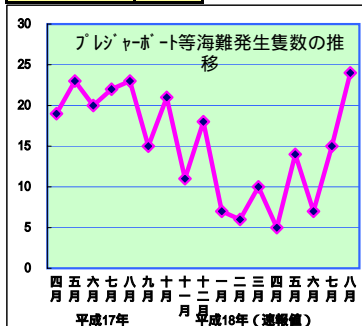
若年齢層の事故(事故者数は再掲)

遊泳中5人(沖に流される3人、溺水2人)、磯遊び中1人(岩から転落)
釣り中1人(岸壁から転落)
死者は昨年に引き続きゼロ



平成18年8月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	24隻
衝突	3
乗揚	2
転覆	2
浸水	0
推進器障害	3
舵障害	2
機関故障	5
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航障害	6
安全障害	0
その他	1



安全指導及び関係法令違反等の状況

若年齢層(18歳以下)に対して、

5月~8月の間に、小中学生を中心とした約7,600人に海の事故防止等の指導・啓発を行いました。

プレジャーボート等に対して、

約1,100隻に海難防止、ライフジャケット着用等を現場(海上)指導しました。

ライフジャケット着用状況は、

プレジャーボート等乗船者のライフジャケット着用率は66%でした。

関係法令違反等に対しては、

現場(海上)において口頭是正指導(405隻)や警告(95件)を行ったほか、無検査・無資格運航、定員超過等105件を検挙しました。



け後減すこ
ても少この
くし死夏
だ安ま者の
さ全しは事
い。にた昨故
は十皆よ報
分さり告
気ん大し
をきま
付今く

プレジャーボートからの
海中転落者の生存率
(過去5年全国統計)

救命胴衣あり 76%

救命胴衣なし 42%

海難審判庁裁決から ~シリーズ~

【事故の概要】

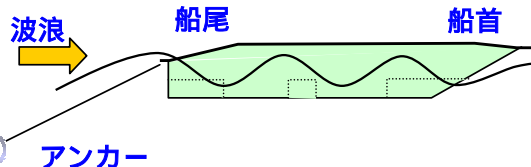
K丸(3.6m、FRP製、定員3名)は、船長を含め4名(大人3名、子供1名)が乗船のうえ、強風波浪注意報発令されている中、船尾からアンカーロープをとった状態で錨泊遊漁している最中、折からの強風による波浪が船尾部から船内に打ち込み水船状態となった後、転覆した。

船長を含む乗船者3名(子供1名を含む。)は、船体に掴まったり、陸岸まで泳ぎ救助されたが、K丸の近くを漂っていた携帯電話の入った防水バックを救命胴衣を着用しないまま、泳いで取りに行った1名が行方不明となり、後日溺死体で発見された。

【事故の原因】

気象情報の不確認
不適切な錨泊

構造的に船尾部が低く、ここから波浪により海水が船内に打ち込み転覆した。



【裁決主文】

「本件転覆は、気象情報を入手しないまま発航したばかりか、錨泊する際、錨索を凌波性が確保された船首に係止しなかったことによって発生したものである。

なお、同乗者が死亡したのは、救命胴衣を着用していなかったことによるものである。

受審人(船長)の小型船舶操縦士の業務を1箇月停止する。」

船長は普段、出港前に必ずテレビで気象状況を確認していたそうですが、この日は、遠方からお孫さんが来ていたため、釣った魚を土産に持たせてやりたいとの一念で、気象状況の確認を忘れていたということです。また、いつも船尾部に座り釣りをしていたため、アンカーロープは、わざわざ船首部からとらず、いつも船尾部にとっていたとのこと。

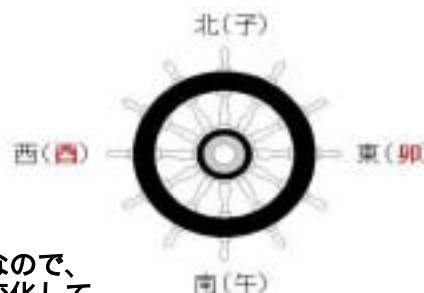
海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

「面舵」「取舵」の語源は？

「面舵(おもかじ)」、「取舵(とりかじ)」は日本の船舶の航海者が使用する用語で、語源は次のとおりと考えられています。

船の針路を右へ変える場合を面舵、左へ変える場合を取舵と言いますが、これらは干支の十二支に由来します。昔は東西南北の方位を表すのに、十二支を用いていました。このため、北は「子(ね)」、東は「卯(う)」、南は「午(うま)」、西は「酉(とり)」となります。これにより右へ舵を切る時は、すなわち東方向なので、「卯舵(うむかじ)」と言い、逆に左へ舵を切る時は、すなわち西方向なので、「酉舵(とりかじ)」と言っていました。これらの言葉が転化、文字が変化して、現在では「卯舵」が「面舵」となり、「酉舵」が「取舵」となっています。

このように大陸から渡来した干支の考え方が航海用語にも残っているのですね。



釣愛好者は要注意！！ 10月～12月は事故多発時期

過去5年に当管区で取扱った釣り中(船釣りを除く。)の事故者146人について分析してみました。

事故が多い月は？

11月 12月 10月(3か月で全体の42%)

死者・行方不明者が多い月は？

11月 12月 10月(3か月で全体の43%)

どのような事故が多い？

波に引き込まれる 転倒(転落) 孤立

事故者の生存率は？

46%が死亡又は行方不明

ライフジャケットは着けてた？

着用者27% 非着用者73%

ライフジャケット着用効果は？

着用者生存率81%、非着用者生存率51%

釣り中の事故を防ぐには？

(全国統計による釣り中の海中転落者の生存率)
自分の動作や釣り場の状況に注意して行動する。
天気、風、波などの情報を入手し、悪天が予想される時は、中止や早めの切り上げを決断する。

事故から自分を守るには？

命を守る三つの基本(ライフジャケット着用、携帯電話など連絡手段の確保、118番の活用)の
励行
単独行動をしない。
行先や帰宅時刻を家族などに伝えておく。



必ず励行して下さいね
あなたとそして愛する
家族のためにも・・・